

図 1

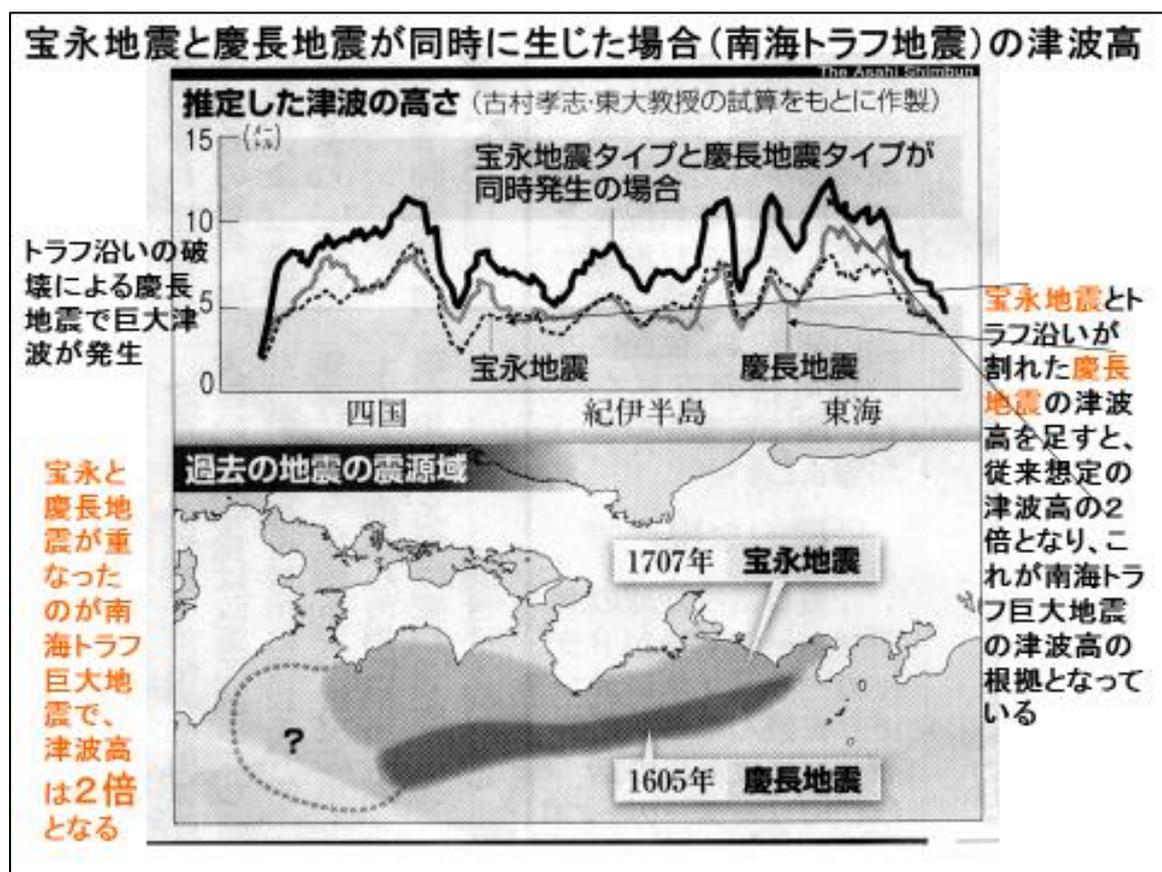
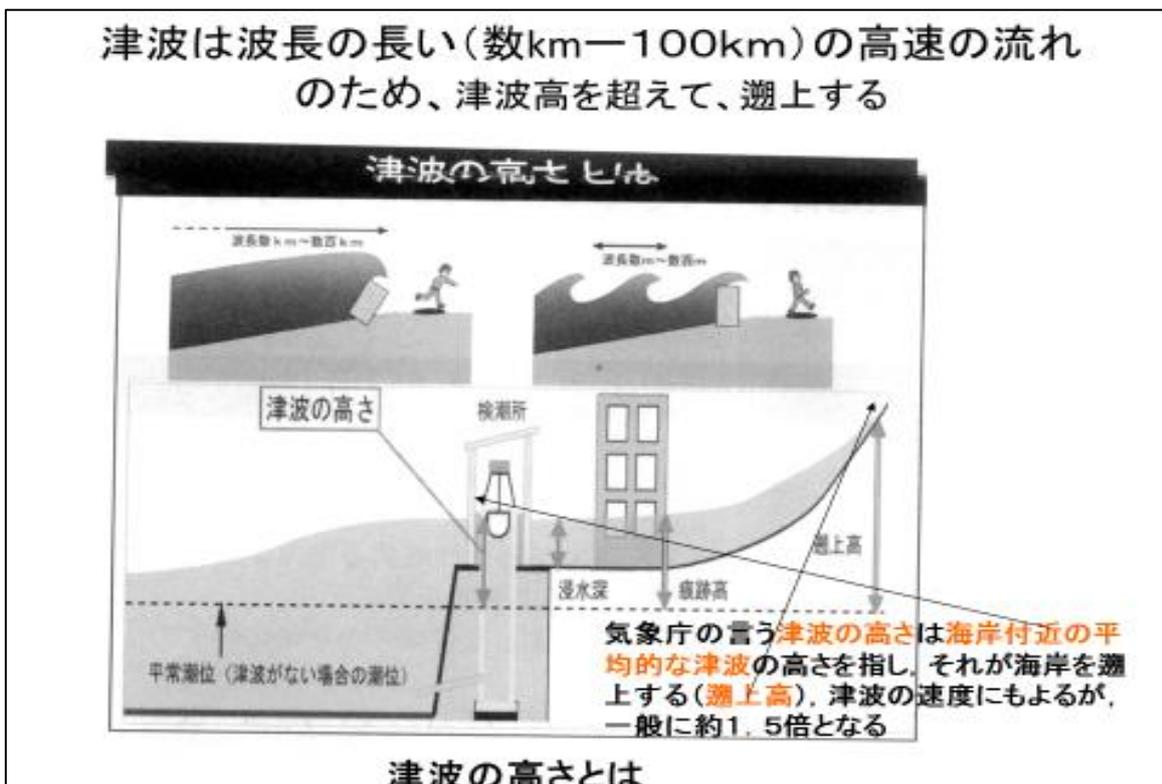
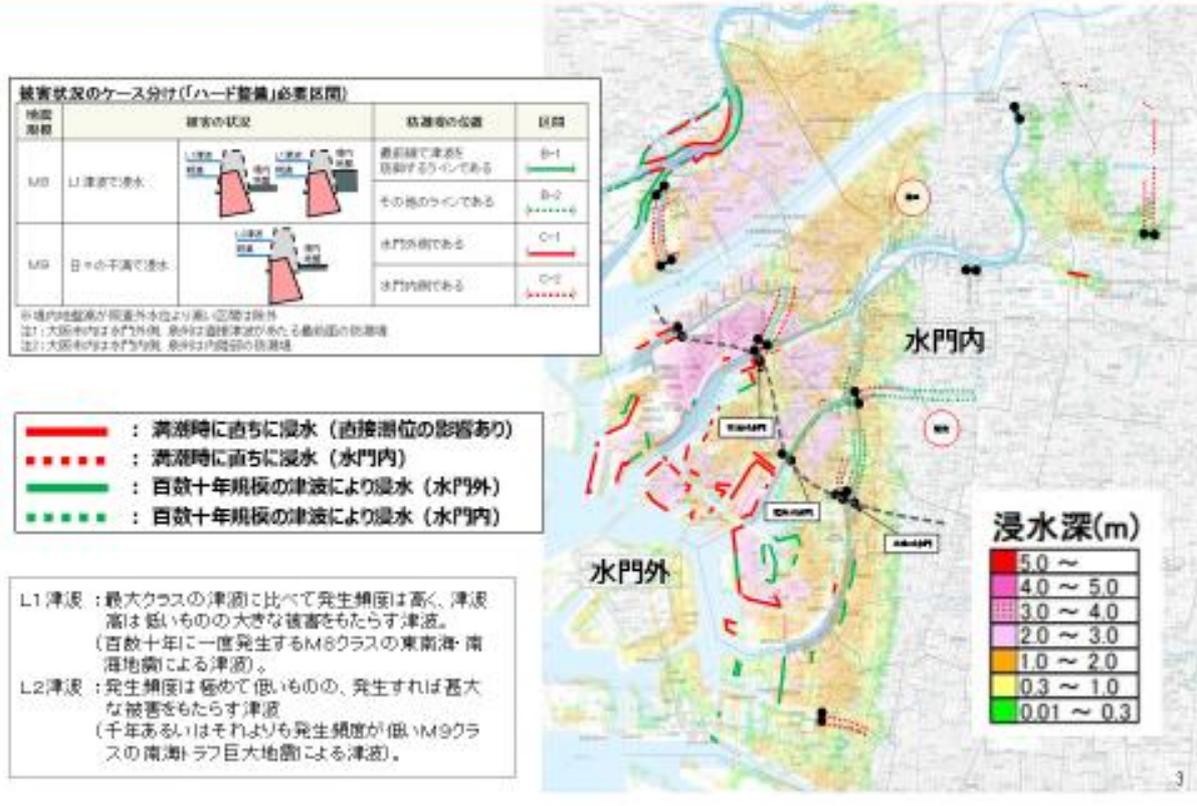


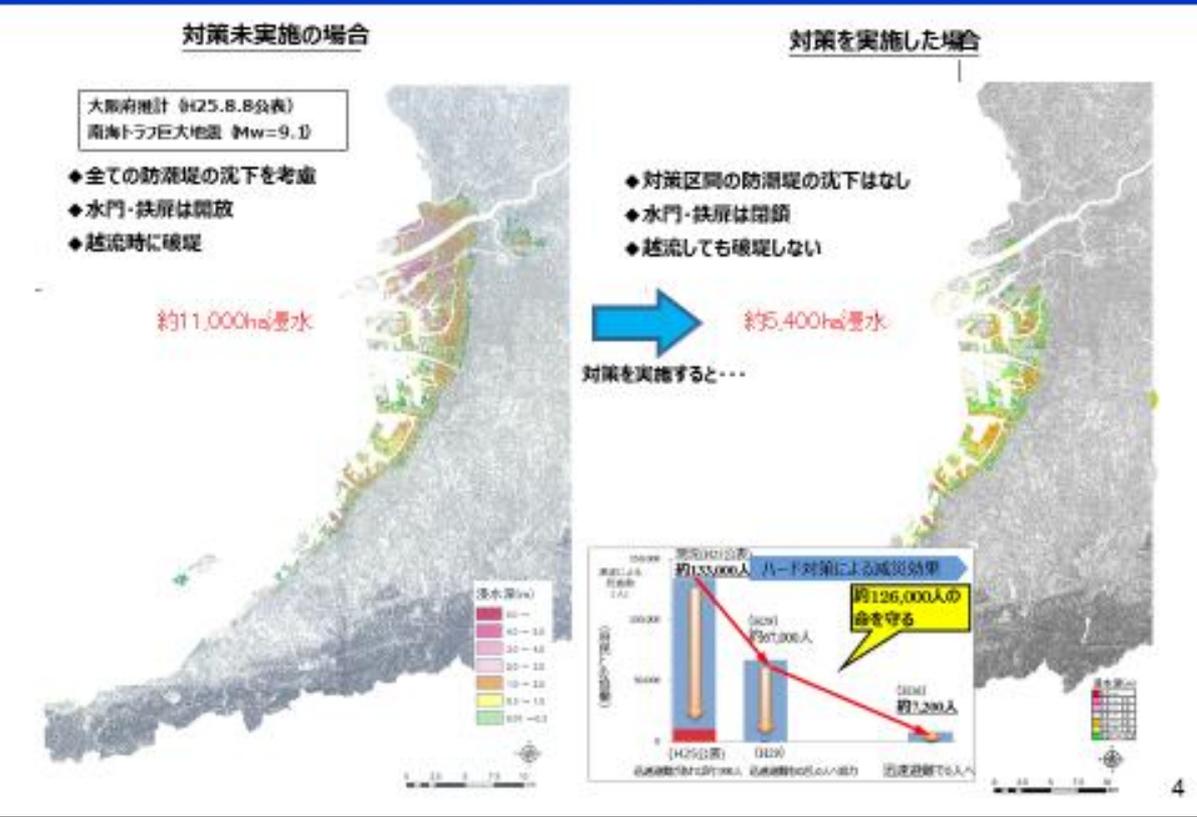
図 2



何が問題なのか、どんな現象が生じるか

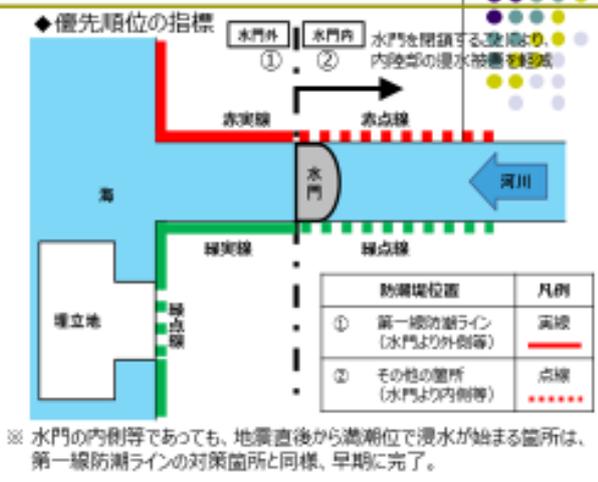


対策の事業費と効果について(堤防・防潮堤)



南海トラフ地震に伴う津波浸水対策（大阪府・市）

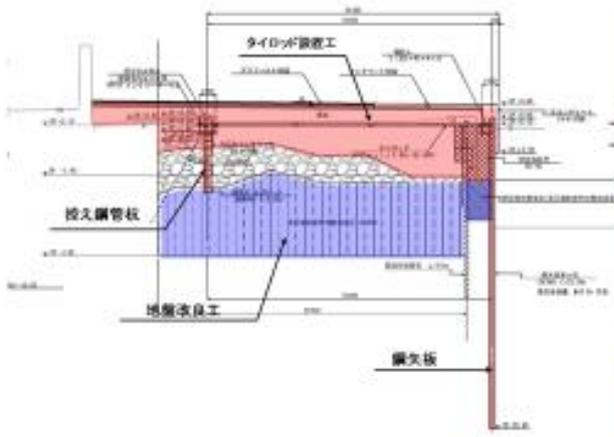
- 【重点化の方針】**
【防ぐ】施策の対象範囲
 防潮堤の液状化により次の事象を生じさせる箇所に重点化
 ◆百数十年に一度の地震により津波で浸水
 ◆千年に一度の地震により地震後すぐに満潮位で浸水
- 【逃げる】、【避く】施策の強化**
 ◆津波が防潮堤を越える箇所については、直ちに倒壊しない構造へ強化
- 【優先順位の考え方】**
 ①「**第一線防潮ライン（水門より外側等）**」から優先実施
 ①-1：地震直後に満潮位で浸水する箇所
 ①-2：津波による浸水箇所
 ②「**その他の箇所（水門より内側等）**」を引き続き、実施
 ②-1：地震直後に満潮位で浸水する箇所
 ②-2：津波による浸水箇所



番号(帯色の着色)	被害の要因	概算事業費(延長)	うち			
			河川	河川	港湾	農林
①-1 (赤・実線)	満潮位	260億円程度(9km)	260億(9km)	-	-	-
①-2 (緑・実線)	L1津波	430億円程度(21km)	280億(14km)	40億(2km)	80億(4km)	30億(1km)
②-1 (赤・点線)	満潮位	160億円程度(6km)	160億(6km)	-	-	-
②-2 (緑・点線)	L1津波	400億円程度(23km)	70億(7km)	130億(5km)	200億(11km)	-
合計		※ 上野国分寺川(59km)	260億(9km)	470億(7km)	280億(15km)	30億(1km)

防潮堤（河川・海岸施設）の対策について

防潮堤の液状化対策工の事例
 > 神崎川（最下流部）の対策事例



対策前



施工中(地盤改良工)

水門の耐震化

○ 耐震補強



尻無川水門

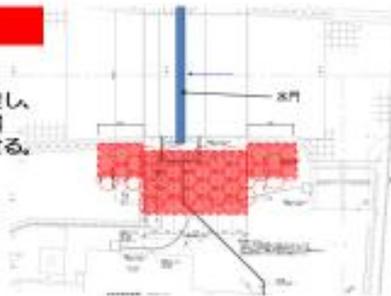


正蓮寺川水門

○ 対策工法例

地盤改良工法

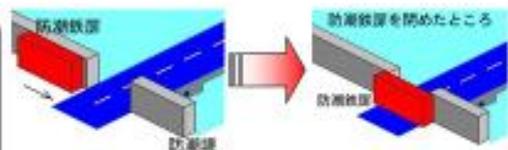
水門下部の地盤を改良し、水門基礎にかかる地震エネルギーを減衰させる。



操作施設の集中監視

○ 津波・高潮ステーション〔防災棟〕

- ・遠隔操作
- ・集中監視



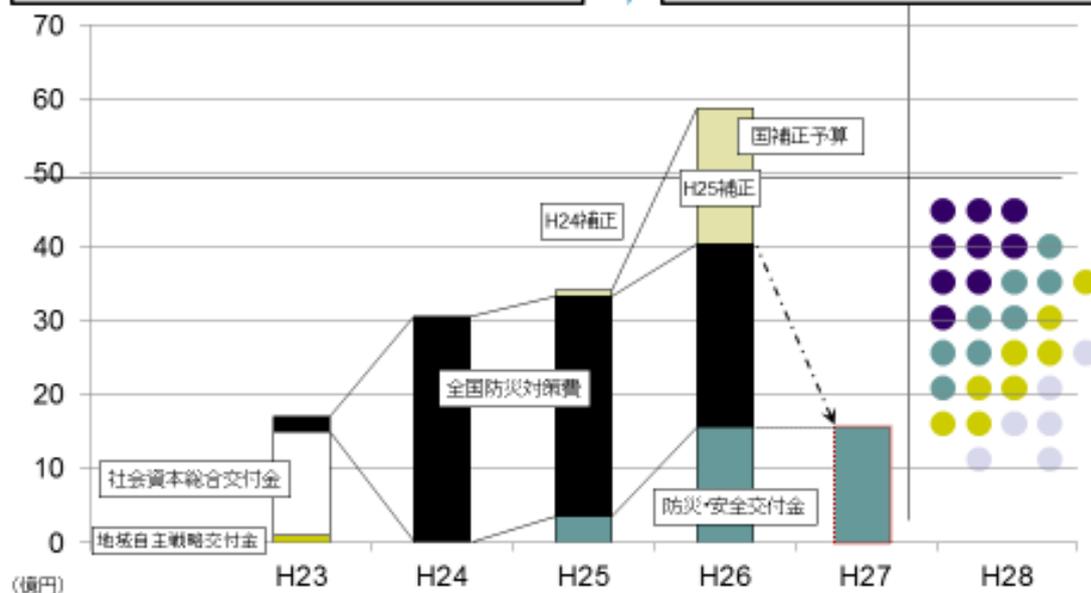
嵩上げの困難な橋については、防波鉄扉を設けて、高潮の浸入を防いでいます。

大阪府 堤防・防潮堤の耐震・老朽化対策関係交付金の推移

【課題】

全国防災対策費の大阪府事業費枠はH26で終了

同等の制度の継続・財源確保が必要



※全国防災対策費(復興庁所管):国土交通省より「社会資本整備総合交付金(全国防災)」として配分
H27年度までの特限制度

※河川及び港湾事業費を計上

➤ ソフト対策「逃げる」

「勇気を持って、命を守る行動をする」

- 正しい知識
- 正しい情報
- 正しい行動

大阪府地域総合防災演習

- 訓練目的……水防技術の研鑽、地域住民及び防災関係機関等の地域防災体制の連携強化、的確な情報伝達及び防災意識の高揚、防災技術の向上。
- 訓練日……平成26年5月24日(土曜日)
- 訓練場所……大和川右岸河川敷
- 概要……水防演習

自然災害に備えよう!
みんなの力で地域を守る!

平成26年度
大阪府地域防災総合演習
平成26年5月24日(土)
午前9時30分から12時まで

訓練場所 大和川右岸河川敷(河内橋下流)

【水防工法】



13

3.みなさまにお願いしたいこと

- 帰宅困難者対策
- 津波からの避難
- 避難情報に注意

14

帰宅困難者数（概要）

【発生状況】

・発生当日に最大で約146万人と想定

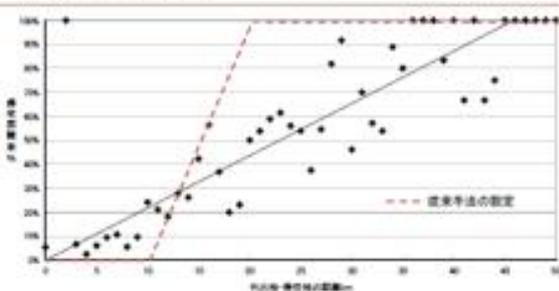
※地震後しばらくして混乱が収まり、帰宅が可能となる状況になった場合において、速距離等の理由により徒歩等の手段によっても当日中に帰宅が困難になる人

【主要駅における帰宅困難者数】（第5回南海・ラフ巨大地震災害対策等検討部会資料より）

主要駅	帰宅困難者 (万人)
大阪駅・梅田駅周辺	18.3
難波駅周辺	9.5
天王寺駅・阿部野橋駅周辺	5.3
京橋駅・OBP周辺	4.1

※鉄道駅を中心とする4平方キロメートル内の帰宅困難者数

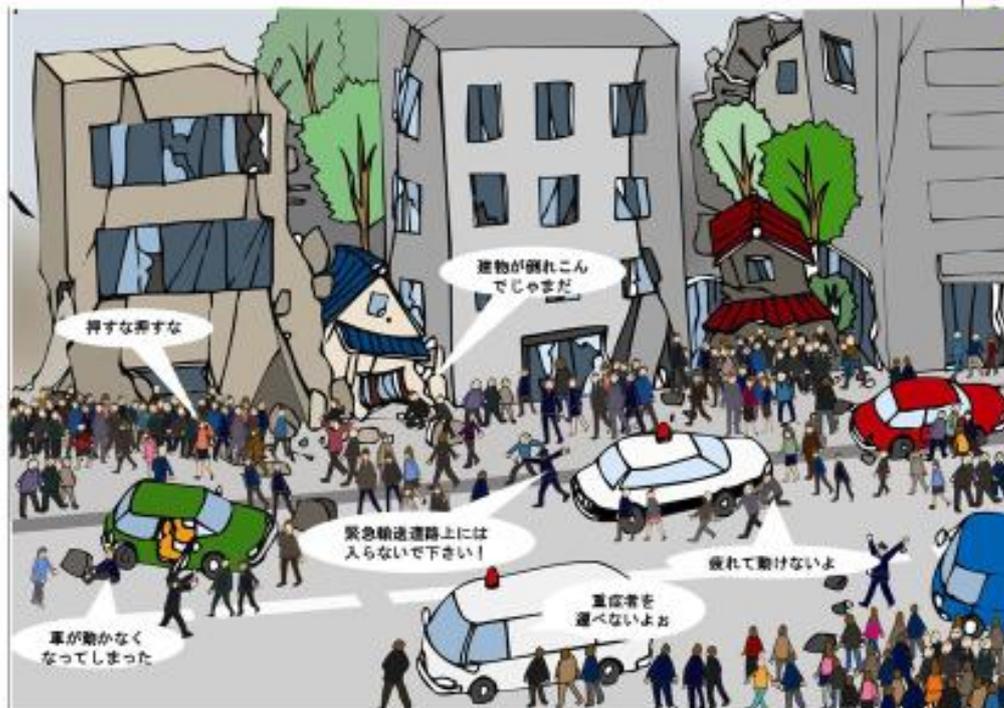
【帰宅困難率】



発災当日の新宿駅前の状況（新宿区撮影）

15

発災直後はむやみに移動を開始しない



出典：首都直下地震避難対策等専門調査会資料

16

災害が発生し、家に帰れなくなったら・・・（日頃の備え）

事業所向け

大地震など災害が発生した場合、交通機関がストップすると、駅前などでは大混乱が予想されます。各事業所では、事業継続のためにも次のような対策が大切です。

◆従業員をいっせいに帰宅させるのは控えましょう。

- ・翌日、翌々日など時差帰宅の呼びかけ
- ・滞在のための備え
 - 水・非常食の備蓄
 - 仮眠のための場所・毛布などの確保
 - 停電対策（懐中電灯など）
 - トイレ対策（携帯トイレ、水洗用の水） など



◆従業員に正確な情報の入手方法を周知しておきましょう。

- ① 交通情報
 - ・テレビ、ラジオ
 - ・『おおさか防災ネット』
 - パソコンから
 - ⇒ <http://www.cds.osaka-bousai.net/pref/index.html>
 - 携帯電話から（右のQRコードからも、直接アクセスできます）
 - ⇒ <http://www.cds.osaka-bousai.net/mobile/pref/>
- ② 家族の安否確認、職場との連絡方法
 - ・災害用伝言ダイヤル「171」、災害用ブロードバンド伝言板「Web171」
 - ・携帯電話を利用した災害用伝言板サービス（NTTドコモ、au、SoftBank、WILLCOM）



◆事務所内の安全対策につとめましょう。

- ・従業員の安全を確保し、早期に事業を再開させるため、物の転倒防止などが欠かせません。



出典：大阪市/インフレット

17

津波から命を守るために、府民の皆さんにとっていただきたい行動

津波からの避難

- 強い地震（震度4程度以上）を感じたときや、弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、津波浸水の恐れのある地域から高台へ逃げましょう。
- 高台へ逃げる間がない場合は、鉄筋コンクリート3階以上の高い所へ避難しましょう。
- 津波は、第1波だけで終わるものではありません。何度も繰り返るものです。
- また、第2波以降が最大となる場所もあることに注意しましょう。
- 揺れがおさまったらすぐに避難を開始し、津波警報や避難勧告等が解除されるまでは、避難を継続しましょう。
- 地下街では、出入口をはじめ、地下につながっているビルの階段、エレベーター、換気口など、あらゆる所を伝って津波が地下空間に浸入する恐れがあります。速やかに安全な地上部分へ移動しましょう。

津波からの避難場所（津波の標識）

津波の恐れのある所では、津波避難場所などの標識が設置されています。海の近くへ行ったときは探してみましょう。



津波注意



津波避難場所



津波避難ビル



津波避難ビルの例

日頃の備え

- 市町村が作るハザードマップ等を活用して、自宅・勤務地・学校周辺の危険度を正しく把握し、避難場所・避難経路や緊急連絡先を常に確認しておきましょう。
- 携帯電話などで、災害情報（エリアメール/緊急速報メールなど）を速やかに入手できます。情報収集方法などについて日頃から確認しておきましょう。

出典：府政だより
平成26年6月1日号

18